

(平成23年4月分)

部 門	市況の概要
野 菜	<p>4月期の野菜の入荷状況は、根菜類では、ダイコンが作柄良好で入荷増となる一方、西洋ニンジン、タケノコでは、生育期の低温、干ばつの影響により入荷減となった。葉菜類では、多くの品目で、生育の遅れから入荷が本月にずれ込み、入荷増となった。施設栽培を主とする果菜類は、作柄良好で、多くの品目で入荷増となった。根菜類では、バレイショは、作柄が悪かったものの、中央集散機能が発揮され、入荷増となった。一方、タマネギは、新物では、作柄良好で入荷増となったものの、北海道産の冷蔵物の入荷が少なく入荷減となった。野菜全体の入荷量は、前年同期を10%上回った。</p> <p>価格は、多くの品目で入荷増であったこと、また、前年単価高であったことから単価安となる品目が多かった。野菜全体としては、前年同期を21%下回った。</p> <p>品目別には、バレイショが入荷増の単価高、ダイコン、ハクサイ、キャベツ、ハウレンソウ、レタス、キュウリ、ナス、トマト、ピーマンが入荷増の単価安、西洋ニンジン、タケノコが入荷減の単価高、タマネギが入荷減の単価安となった。</p> <p>根菜類は、入荷が3%減少し、価格は5%安となった。 葉菜類は、入荷が20%増加し、価格は38%安となった。 果菜類は、入荷が27%増加し、価格は32%安となった。 土物類は、入荷が4%減少し、価格は5%高となった。</p>
果 実	<p>4月期の果実の入荷状況は、本年が裏年の柑橘類は、入荷減となった。一方、作柄が良好であったイチゴ類及び、震災の影響から関東への出荷が減少する中で、本市場へ入荷が集中したメロン類、スイカ類で入荷増となった。リンゴ類は、産地在庫量が多く堅調な入荷となり前年並みの入荷となった。果実全体の入荷量は、前年同期を3%下回った。</p> <p>価格は、柑橘類では、入荷減により単価高となった。一方、入荷増であったイチゴ類、下位等級の入荷割合の高かったリンゴ類、大玉スイカまた、震災の影響により需要が低迷したメロン類では、単価安となった。果実全体では、前年同期を10%上回った。</p> <p>品目別には、ふじリンゴ、アンデスメロン、イチゴ、大玉スイカが入荷増の単価安、甘夏柑、清見オレンジが入荷減の単価高、アールスメロンが入荷減の単価安となった。</p> <p>柑橘類は、入荷が35%減少し、価格は22%高となった。 リンゴ類は、入荷が前年並み、価格は13%安となった。 イチゴ類は、入荷が29%増加し、価格は3%安となった。 メロン類は、入荷が4%増加し、価格は16%安となった。 スイカ類は、入荷が48%増加し、価格は6%安となった。</p>

主要品目（野菜）	市況の概況
<p>【根菜類】</p> <p>ダイコン</p> <p>西洋ニンジン</p> <p>タケノコ</p>	<p>長崎県を中心に、鹿児島県、千葉県、滋賀県、香川県からの入荷。 各産地ともに好天に恵まれ、作柄良好であったことから入荷量は、前年同期を3%上回った。 価格は、高値であった前年を32%下回った。</p> <p>徳島県を中心に、長崎県、中国、台湾、鹿児島県からの入荷。 主力の徳島県産で低温、干ばつの影響から肥大が悪く、細物傾向での入荷となった。全体の入荷量は、前年同期を6%下回った。 価格は、入荷減により前年同期を11%上回った。</p> <p>京都府を中心に徳島県、福岡県、鹿児島県からの入荷。 主力の京都府産で、年明け以降の低温、干ばつの影響により作柄が悪く入荷減となった。全体の入荷量は、前年同期を23%下回った。 価格は、入荷減により前年同期を37%上回った。</p>
<p>【葉菜類】</p> <p>ハクサイ</p> <p>キャベツ</p> <p>ホウレンソウ</p> <p>レタス</p>	<p>茨城県を中心に、長崎県、熊本県、群馬県、兵庫県からの入荷。 各産地とも生育期の低温、干ばつの影響による生育の遅れから入荷が本月に集中した。また、前年同期の入荷が少なかったこともあり、入荷量は、前年同期を12%上回った。 価格は、入荷増であったこと、前年高値であったことから前年同期を38%下回った。</p> <p>愛知県を中心に、兵庫県、神奈川県、滋賀県からの入荷。 各産地とも生育期の低温、干ばつの影響による生育の遅れから入荷が本月に集中した。また、前年入荷が少なかったこともあり、入荷量は、前年同期を32%上回った。 価格は、入荷増であったこと、前年高値であったことから前年同期を49%下回った。</p> <p>京都府を中心に、徳島県、岐阜県、滋賀県、福岡県からの入荷。 主力の京都府産で好天に恵まれ、作柄良好であったことから、全体の入荷量は、前年同期を36%上回った。 価格は、入荷増であったこと、前年高値であったことから前年同期を32%下回った。</p> <p>兵庫県を中心に、長崎県、徳島県、茨城県、岡山県からの入荷。 各産地とも生育期の低温、干ばつの影響による生育の遅れから入荷が本月に集中した。また、前年入荷が少なかったこともあり、入荷量は、前年同期を22%上回った。 価格は、入荷増であったこと、前年高値であったことから前年同期を43%下回った。</p>

【果菜類】

キュウリ

宮崎県、高知県を中心に、滋賀県、福岡県、愛媛県からの入荷。各産地とも好天に恵まれて、作柄良好であったことから、入荷量は、前年同期を30%上回った。

価格は、入荷増であったこと、前年高値であったことから前年同期を43%下回った。

ナス

高知県を中心に、岡山県、徳島県、滋賀県からの入荷。

各産地とも好天に恵まれて、作柄良好であったことから、入荷量は、前年同期を61%上回った。

価格は、入荷増であったこと、前年高値であったことから前年同期を36%下回った。

トマト

熊本県を中心に、福岡県、三重県、佐賀県、京都府からの入荷。各産地とも好天に恵まれて、作柄良好であったことから、大玉傾向での入荷となった。入荷量は、前年同期を17%上回った。

価格は、入荷増であったこと、前年高値であったことから前年同期を24%下回った。

ピーマン

宮崎県を中心に、高知県、茨城県、鹿児島県からの入荷。

各産地とも好天に恵まれて、作柄良好であったことから、入荷量は、前年同期を54%上回った。

価格は、入荷増であったこと、前年高値であったことから前年同期を49%下回った。

【土物類】

バレイショ
(メーク含む)

鹿児島県、北海道を中心に、長崎県からの入荷。

主力の鹿児島県産で、生育期の低温、干ばつの影響により作柄が悪かったものの、中央集散機能の発揮により、全体の入荷量は、前年同期を4%上回った。

価格は、全国的な品薄状態から前年同期を19%上回った。

タマネギ

長崎県、北海道を中心に、佐賀県、オーストラリア、静岡からの入荷。

長崎県産、佐賀県産では、好天に恵まれて、作柄良好であったことから入荷増となったものの、作柄が悪かった北海道産の入荷が少なく全体の入荷量は、前年同期を5%下回った。

価格は、入荷減ながら、前年高値であったことから、前年同期を9%下回った。

【その他野菜】

生シイタケ

徳島県を中心に、広島県、北海道、和歌山県、岡山県からの入荷。北海道産が入荷増となる一方、広島県産、岡山県産で、作柄が悪く入荷減となり、全体の入荷量は、前年同期並みとなった。

価格は、上位等級を中心に不況による需要の低迷が続いており、前年同期を14%下回った。

主要品目（果実）	市況の概況
甘夏柑	<p>熊本県，愛媛県を中心に，福岡県，和歌山県，愛知県からの入荷。本年は，裏年で着荷数が少ない上に，小玉傾向での入荷となったことから入荷量は，前年同期を21%下回った。</p> <p>価格は，入荷減により前年同期を43%上回った。</p>
清見	<p>和歌山県を中心に，佐賀県，大分県，福岡県からの入荷。本年は，裏年で着荷数が少なく，入荷量は，前年同期を31%下回った。</p> <p>価格は，入荷減により前年同期を28%上回った。</p>
ふじ (サン含む)	<p>青森県からの入荷。本年は，輸出の減少や着色不良の影響から産地での流通在庫が多い状況となっているため，入荷量は，前年同期を11%上回った。</p> <p>価格は，入荷増であったこと，下位等級の入荷割合が高かったことから前年同期を19%下回った。</p>
イチゴ	<p>福岡県を中心に，熊本県，大分県，長崎県，佐賀県からの入荷。各産地とも好天に恵まれ，作柄が良好であったことから，入荷量は，前年同期を29%上回った。</p> <p>価格は，入荷増により前年同期を3%下回った。</p>
アールスメロン	<p>静岡県，高知県を中心に，宮崎県からの入荷。各産地ともに栽培面積の減少がみられ，入荷量は，前年同期を11%下回った。</p> <p>価格は，入荷減ながら，震災の影響による需要の低迷等により前年同期を22%下回った。</p>
アンデス	<p>熊本県を中心の入荷。各産地ともに栽培面積の減少がみられるものの，震災の影響から，関東への出荷が減少する中で，本市場への入荷が集中した。入荷量は，前年同期を12%上回った。</p> <p>価格は，小玉の入荷割合が高く，前年同期を5%下回った。</p>
大玉スイカ	<p>熊本県を中心に，高知県からの入荷。震災の影響から，関東への出荷が減少する中で，本市場への入荷が集中した。入荷量は，前年同期を50%上回った。</p> <p>価格は，下位等級の入荷割合が高く，前年同期を3%下回った。</p>